

風と空と光

水道広場で

オオイヌフグリと
みじかいハコベが
せっかちな花を二つ三つひらいて
かわいい声で歌っている

こたえて返す

うぐいすの声はまだ聞こえない

森の入り口は

春の入り口

光が道にそって流れている



イラクへ

さわさわと木の芽やつぼみや鳥たちのつぶやきが広がる
静かで明るい平和な春

この春は

等しく北半球を訪れるはずのものなのに

途切れることのない戦争の時代になってしまった

二十一世紀

今 想いは西へ向く

「我々は爆撃には慣れてる」

と話したという バグダットの人々に

この静かさを届けたい



春の雪

風の音がした

湾からの風か

吹きおろす風か

谷の上空でうずまいて

まだやわらかい緑をなでていく風

きらきらした葉もれ陽といっしょに

ちらちらと白く舞ってくる

広げた枝の上で

お日様の光を吸ったミズキの花

小さな花が一つ一つ

風に揺すられておちてくる

足元を白く染めて散る

雪の花

明るい五月の森の一角に

今日 春の雪が降る

雨

ミズキの木が

緑に盛り上げたあたらしい葉の上に
カッパのお皿のような花をならべて

天を見ている

雨を呼んでいるのだ

カネも太鼓も踊りもない

静かな雨乞い

やがて

小粒の雨が降りはじめた

うらめしそうな人間の表情をよそ

両手を広げるように

枝をゆすって目をほそめている



森のまんなか

いくすじかの流れとぬかるみを越え
ふと 顔をあげると
ぼっかりと開けた空
小網代の谷のなかほど
だから
まんなか広場

山野辺の道へとつづく
細い道の両脇に
秋には真珠色の実をつける
ジュズダマが群れる
今はまだ軟らかな葉を茂らせるのに忙しい

草いきれの夏をめざし
緑色のもやの立つ
まんなか広場
時間もここで ひとやすみ

